本を選ぶ

高校図書館版

NO.35　2003年（平成15年）5月10日

●発行／ライブラリー・アド・サービス
本社　〒162-0825　東京都新宿区神楽坂5-20-5-504　TEL=03-3235-6168

ぶっく・えんど

あのころ

言うのもはばかられるが、私は高校時代にはあまり勉強しなかった。

1970年代の半ばに私が通っていた京都市内の公立高校は「男女共学・小学区制・統合性」の高校三原則がモットーで、“民主的で自由な”学校生活が実現されていた。と同時に「十五の春は泣かせない」というスローガンの下、高校入試を安易にしたため学力レベルが低下、大学受験での公立校の凋落が始まっていた。私は進学に一抹の不安を抱きながらも、自由な雰囲気の高校生活を満喫し、友だちに会うために毎日学校に通っていた。そんな訳で図書室に行くこともまれで、本を借りた記憶もあまりない。

しかし、勉強や学校とは無関係に本はよく読んでいた。たまたま家には中央公論社の文学全集があり、これがいわば私専用の図書室だった。手当たり次第に読んでいたので（もちろん難解なものは途中で放り出したが）高校に入る頃にはすっかり“文学少女”が出来上がった。当時の私は自分には何か文学的な才能があると思い込んでいて、勉強もしないで小説ばかり読んでいた。文学作品をちゃんと理解していたとは思えないが、当時は自分こそ選ばれた読者で、私だけが作者の意図を読み解けると厚かましくも思っていたものだ。さらに、文学作品に描かれたさまざまな人間の生き方が、自分の生活に直接かかわりがあるかのように、小説の世界にリアリティを感じていた。無意識に、物語の中の人生を現実の人生に重ね合わせていたのかもしれない。

幾星霜を経て、40歳を越えた現在の私の読書はもっと実用的、実利的で、調べごとのための文献を読むとか、子ども関係の本、料理や趣味の本を手に取ることが多い。活字好きなのは変わらないが、貪欲に文学作品を読んだひたむきさは姿を消してしまった。新聞や雑誌で小説の書評を読むと「機会があれば読んでみたい」と思うのに、実際にその本を借りたり、買ったりする以前に本の題名を忘れてしまう。今や文学は私の生活から離れたものになってしまったようである。思い返してみると私の思春期は、寝ても醒めても小説の世界に浸りきって、滑稽なくらい“文学少女”していたのだ。

けれども、“文学少女”の時代は人生の中でとても贅沢な時間だったかもしれない。実生活に役立つ本を読み、勉強することはその後いくらでもできるだろう。若くて世の中のことをまだあまり知らなかったから、フィクションである小説を自分に引き寄せて真剣に読むことができた。

“文学少女”でいられる時期は限られていて、その意味では私の高校時代はまさに正しい“文学少女”期の過ごし方であったと言えるだろう。この読書体験がその後の人生で活かされたとはあまり思えないが、切実に小説を読んだという思いは、確かに私の心の中に残っている。

私が高校生だった時代から四半世紀が過ぎた。はたして今の高校生にも“文学少女”は健在なのだろうか？

（作部径子：フリーライター）

アンケート●高校の図書館を楽しむ！

高校生のときに読んだ本・読みたかった本・読んでほしい本
愛書家・読書家との聞こえの高い６人の方からいただいた回答です
現役高校生のみなさんと司書のみなさんのご感想は？・・・

★―吉田優子：子ども文庫主宰

・『何もなくて豊かな島―南海の小島カオハガンに暮らす―』（崎山克彦／新潮文庫）

フィリピン・セブ島沖の珊瑚礁に浮かぶ周囲2ｋｍの小島カオハガン島。一番高い所でも海抜４ｍ。今この時を生き、自然に身を委ねて時間の“質”を楽しむ島の人たちの暮らし。桃源郷のようなこの島での著者の暮らしが羨ましい。

・『写真集50本の木』（丹地保堯写真／谷川俊太郎詩／ちくま文庫）

日本各地を巡って撮った自然風景の中のさまざまな表情の木たち。時に一人静かに瞑想し、時に歓喜の歌を歌う。その木たちに語りかけ賛美し心添わせて謳いあげた、谷川俊太郎の『二十行の木』の詩がそれぞれの木に更なる豊かな表情を与えている。ながめているだけで心癒される本。

・『さびしいときは心のかぜです』（原田大助／樹心社）

“嬉しいときも悲しいときも怒っているときも、僕の心は気持ちでいっぱいなのです”そんな大ちゃんのいっぱいの気持ちをいっぱい伝えてくれる詩と絵の本。

“さびしいときは心のかぜです せきして はなかんで やさしくして ねてたら 1日でなおる”声に出して読んだら、心のかぜがなおって元気が湧いてくる。

・『帰ってきたソクラテス』（池田晶子／新潮社）

大学一年で初めてであった哲学、難解な用語の羅列に苛立ち、以来避けて来た世界。ユーモアたっぷりにそれぞれの立場の人達が当たり前と思っていることの矛盾点をするどく指摘しつつ、自然に哲学の入り口へ誘ってくれたことに感謝。他にも哲学を面白く感じさせてくれる著書多数で、つい最近『14才からの哲学』が刊行されたばかり、図書館の順番待ちがもどかしい。

・『愛の妖精』（ジョルジュ・サンド／足沢良子訳／岩崎書店）

高校生の頃に読んだ人には、その時感じた不思議なまでの心の高揚を20年、30年経っても忘れることなく、題名を聞いただけで、たった今読んだばかりのように物語の筋がありありと浮かんでくる印象深い一冊。

★―鈴木弘子：みすず書房営業部

私が高校生、あるいはその直後に好きだった本たちは、軒並み品切れ・絶版状態にあることが、このたび、わかったことです。

ちなみに、『メルヒェン』『デミアン』など新潮文庫のヘッセ、ベーレント『世界は音』人文書院、宮城音弥の岩波新書、以上がいずれも現在はなし。

在庫のあるところであげるなら、ベルクソンの『笑い』岩波文庫、シルヴァスタイン『おおきな木』篠崎書林、エンデ『モモ』岩波書店

★―渋谷　茂：白水社宣伝部

・シリーズ『いまは昔　むかしは今』全5巻、網野善彦・大西廣・佐竹昭広編、福音館書店
各8000～8500円

歴史・文学・美術の第一人者三人の共同編集で日本中世文化の深層をさぐる、というシリーズだが、版元でおわかりのように児童書の体裁をとっており、ひとつの謎が思わぬところから解明されていく、スリリングな編集になっている。おそろしく贅沢な本。

★―並木せつ子：公共図書館

もう二十年以上前、福音館書店から出版された「日曜日文庫」にはキラ星のごとく読み応えのある本が収められていた。地味な装丁だったし、児童室という場所も適切でなかったのか、図書館でもそれほど貸出の多いほうではなかった。その後絶版になってしまったので、残念ながら図書館に行かないと読めない本になってしまった。なかでも心に残る数冊を紹介したい。

＜なんらかの形で再版されたもの＞

『リーパス』（ＢＢ著　１９７７年）→『野うさぎの冒険』（岩波書店　1990年）　※今はこれも手に入らない）

『若葉萌えいづる山で』（宇江敏勝著　1987年）→『若葉は萌えて』（新宿書房　2002年）

『少年動物誌』（河合雅雄著　1981年）→『河合雅雄著作集　8巻』（小学館　1996年）

『幼ものがたり』（石井桃子著　1981年）→『石井桃子集　4巻』（岩波書店　1998年）

『少年動物誌』『幼ものがたり』は、昨年刊行が始まった「福音館文庫」でも入手できる。

＜現在入手困難なもの＞（「福音館文庫」で再版されるといいのだが）

『ミス・ジェーン・ピットマン』（アーネスト・ゲインズ著　1977年）　『南島紀行』（斉藤たま著　1980年）

『峠をこえた魚（いお）』（神崎宣武著　1985年刊）

それから、エーヴ・キュリーの『キュリー夫人伝』（白水社　1988年刊）。少女の私を「キュリー夫人みたいになりたい」とふるいたたせ、三十年後、おばさんになった私を元気づけてくれた本である（キュリー夫人にはなれなかったけど）。今も手に入るので進路について考え始めた高校生たちも、この本から元気や勇気をもらってほしい。

★―佐野明子：建築設備設計事務所

・『スター☆ガール』（ジェリー・スピネッリ著／千葉茂樹訳／理論社／¥1380+税）

ハイスクールの転校生スターガール・キャラウェイは、不思議な子だった。白いドレスにウクレレ、ランチタイムの儀式、風変わりなチアガール。（裏表紙の解説から）。スクールメイトから喝采を受けて受け入れられ、そして、完全に拒否されてゆく様にはらはらどきどきする。

・『卵が私になるまで―発生の物語―』（柳澤桂子／新潮社／¥1000+税）

生きて生まれてくることはとても不思議です。分裂を始めたどの細胞がどの器官になるのかどのような過程で決められるのでしょうか。人間と他の動物とは同じなのか違うのか。それを知るためにありとあらゆる可能性が確かめられ、著者が研究してきたことを基に語られます。高校で習わなかった現在の生物学は目新しいことばかり。

・『わたしと小鳥とすずと』『明るいほうへ』（金子みすゞ／ＪＵＬＡ出版局／¥1200+税）

すっーと心が持ち上がるような気がする本。

・『江戸の町　上・下』（内藤　昌著／穂積和夫イラスト／草思社／¥1500+税）

江戸の町は「の」の字に発展するように計画されたと言われています。家康の開府以来、江戸の都市計画、江戸城の完成まで50年。家光の時代に完成を見てまもなく、明暦の大火で町屋、大名屋敷から江戸城の天守閣まで全て失います。

火災、地震、飢饉、関東大震災、戦災、何度も何度も失われよみがえってきた東京の生活史を知ることが出来る好著。新しい本では、『東京の空間人類学』（陣内秀信／ちくま書房／¥900+税）川の町・東京を読み解く上でおすすめです。

★― 森谷 健太郎：ADEX 株式会社 日本経済広告社

とりあえず『竜馬が行く』はあまりに定番に過ぎるので除外いたしました。

・『神々の山嶺　上下』（夢枕　獏／集英社文庫／ISBN4-08-747222-1　¥724(税別)／ISBN4-08-747223-X　¥800(税別)）

いまいちパッとしない写真家深町がエヴェレスト登山にまつわるさまざまな因縁に向かっていく冒険活劇。とりわけ私自身が高校の頃から山登りをしており、しかも小説の舞台となっているネパール山間部にもいった経験があるため昨年読んだ本の中ではダントツに面白かったのかもしれない。しかし、まったく登山経験の無い私の家内も後に読み、「最高にかっこよくて面白かった」との事ですので一般的にも楽しめるのかも。どろどろとした男女間の愛憎などもあまりなく、伝説の登攀家羽生との対立・反発・友情などストイックな男同士のぶつかりあいが興奮を誘う。個人的にはコレを読んで山を志す方が出てきてくれれば山屋の末座を汚すものとしては喜ばしいし、少しでも興味を持ってくれれば嬉しい。

ただし、「アイゼン」「アンザイレン」「オバーハング」といった山岳用語が所々に出てきて特別に註釈もないので辞書をひいてイメージを広げてもらいたい。私にとっては純粋に「面白い！」と思え、本当に寸暇を惜しんで読むといった表現がぴったりの本であると思えた、お勧めの一冊。

・『人間とは何か』（マーク・トウェイン著／中野好夫訳／岩波文庫／本体 460円／1973年6月18日／ISBN4-00-323113-9）

老人と青年の対話形式を取り（おそらくこれは著者の葛藤の両方を示すものとして理解していますが）人間の思考の無意味さ、悲観的な人間観を説く一冊。有名な本ですのですでに読まれた方も多いと思いますが、その後の生き方を変えるとまではいかないまでも個人的にはその後の人生の思考方法を構成するのに役立った。文体が岩波らしい非常に読みづらいものなので、相当に辛抱強く読まないと読了は難しい。

ただし、内容的なものは単純な「頑張れ！」とか「勧善懲悪」的なものではないので、いろいろと思い悩む青年期にはひとつのおおきな糧になるものと思う。そのかわり世の中を見るのにちょっと斜に構えた青年にはなるかもしれない。同じマーク・トウェインの『不思議な少年』もあわせて読んでもらいたい。これもかなり辛抱が要求されるが。トムソーヤの冒険に代表される著者であるが、全く対極に位置する小説である。しかし、トムソーヤの終章近くハックルベーリーの感じる幸せなどのくだりに関しては共通している部分もある。

・『６９(sixty nine)』（村上　龍／集英社文庫）

高校生の頃に読書好きの友人にすすめられて読んでみたが、この小説は本当に面白い。ここ最近の著者の作品は変に社会性をもたしていたり、アウトローぶった気取りがどうも鼻白んでしまうが、これだけは今読んでも楽しく読めるだろう。

1969年の話。主人公ヤザキの楽しいこと探しの高校生活を描く。実際に村上龍が体験したことをベースに書いているとの事なので、「自慢じゃないの？」と思える節もあるが、現実にうらやましくさえある。これだけ共感できて、笑いをこらえて、甘酸っぱくて、恥ずかしくて、かっこよくて、かっこ悪い小説はあんまりない。本当に実力のある作家なのだろうと思う。ガキ臭い、くだらないと言ってしまえばそれまでであるが、高校生という、この小説が純粋に「かっこいい」「うらやましい」と思えるような時期に一度手にとってもらいたい。ちなみに私はいまだに「うらやましい」と思う。くやしい。

多くの人の協力と幸運のおかげで、図書館のレイアウトを変更

－異動半年で産休に－

木下 通子

レイアウトを変えられる？？

前回の連載で夏休みまでのレイアウトの変更のことを書きましたが、その後、大きなできごとがあったのです！　観葉植物を置くことや、書架の配置替えはやる気になればすぐにできます。でも、固定式のスチール書架は、どうしようもないだろうと思っていました。春日部東高は図書館の床がグレーのタイルで、書架もスチールむき出しのグレー。校舎の建て方の関係で、５階でありながら光が入りにくくなっています。スチール書架が６本並んでいました。

図書部会でも何年かかけて書架の更新を行えるよう、学校に予算要求してくれていました。でも、その予算で今回は雑誌架を更新してしまったので、しばらくはがまんするしかないと思っていました。ところが、埼玉県高等学校図書館研究会夏期研究集会で、学校の修繕費を使って図書館のドアなどを更新した学校の事例を聞いたのです。これだっ！とひらめいて、早速事務室に修繕費のことを打診すると、今年度は予算があまりそうとのこと。そこで早速、見積もりを依頼しました。

変更したかった点は、書架を１本はずし、５本にして書架と書架の間を広くすることと、側面に木の板を付けて、木製書架のような雰囲気をだし、そこに書架表示ができるような表示板をつけることです。こちらが思った以上に安い見積もりがでて、新たな予算をつけてもらうことができました。

書架につける側板は、天然木の風合いを生かし、遊び心をもたせて、○や△の切り込みを入れてもらいました。

四日間の閉館でリニューアル

作業は、半日授業になる修学旅行中に、図書館を閉館にして行うことにしました。書架から本を出してしまうのはこちらの仕事なので、１年生の図書委員にお願いしました。本を出す作業は修学旅行の前日にもかかわらず、２年生の図書委員が総出で手伝ってくれました。

書架をからっぽにしないといけないので、出した本をどこに置くかがいちばんの難問でした。書店からダンボールを借りてそこに詰めるというのも考えたのですが、戻すことを考えると効率が悪いのでやめました。そして、他校の例も参考にして、机に書架と同じ番号をつけて、その番号通りに本を移動する方法をとることにしました。

棚には１から順番に数字を書いた紙を貼り付けていきました。問題は本を置く机にどう番号を表示するかです。あまりぎゅうぎゅうにすると、どの棚の本だかわからなくなるので、事前に何棚分か出してみて量を測った後、綴り紐で机上に枠を作りました。机が足りないので本の床置きも考えたのですが、作業中に蹴飛ばしてしまう心配もあったので、隣の音楽室から机を借りて、そこにも本を置きました。機械的な作業だったので、本を出すのは４時間くらいで終わりましたが、この時点で分類番号がバラバラになってしまった本もあり、片付け作業が思いやられました。

書架の解体と側板の取り付けは、一日で終わりました。そして、いよいよ本をしまう作業です。１年生の図書委員と３年生も含めた有志の生徒30名ほどで、午後だけ、二日間をかけて作業をしました。

文庫本は新書が入っている低書架に移したいと考えていたので、事前に古いものを廃棄する作業を進めていました。国語の先生にも協力してもらって、今、手に入らないもの以外は思い切って捨てるという方針で本を減らしたのですが、本棚があっという間にいっぱいになってしまい、後日また本を捨てました。

書架からはみ出た新書本は一般書架に混在せずにブックトラックを新規購入し、そこに配架しました。他校に見学に行った際に、ブックトラックを使って同じ分類の書架の側面に新書を配置している様子をみて、本が探しやすそうだなと思っていたのです。ブックトラックも書店のカタログで探し、安かったので思い切って８台購入しました。

業者の作業日を含めて四日間閉館し、図書館はリニュアールオープン。そこで、私が産休に入

り、司書もリニュアールされました。

開館日数	206日
年間貸出冊数	16200冊
生徒一人あたりの貸出冊数	14.7冊
2001年度受け入れ冊数	3076冊
リクエストで購入した本	1328冊
リザーブ	987冊
授業での利用時間	86時間

これが、昨年度の春日部東高校の図書館活動記録です。私が携わったのは、4月～10月までの7か月間。産休代替えの方は効率よく仕事をこなし、「いんふぉめーしょん」も引き継いで発行してくれました。そして、この1年で書籍の年間受入冊数が約2倍に、貸出が3倍以上増えました。

三人目の子どもに恵まれた幸せ

三人目を妊娠したのがわかったのが6月中旬でした。育児休業あけで転勤したばかりだったし、まさか3人と思っていなかったので、どうしようと一瞬あわてたのですが、神様からの授かりものとポジティブに考えて、産休前に何をしておくと復帰してからの仕事が軌道に乗るか考えました。

私が出した答えは、「予約制度」と「新着図書案内」の定着。それと「レイアウトの変更」。「予約制度」と「新着図書案内」は、図書館（司書）の信頼を得るために絶対に必要だと思っているので、どちらにしろ一年目から頑張ろうと思っていました。が、予算が絡むことや人を巻き込まないとできない作業は、仕事が少し安定してからと思っていたので、産休に入ることがわからなければ書架にまで手を付けなかったと思います。

書架移動の残務処理はけっきょく代替えの方にお願いすることになってしまいました。彼女には「本をさわることでどんな本があるか覚えることができました」と言ってもらえたので、申し訳ないと思いつつ、少しほっとしました。私も1年通して学校を見ることができなかったので、学校の様子をちょこちょこメールで教えてもらい、困ったことはその都度対応しました。年度末には統計資料を基に「図書館活動報告」をまとめて、職員会議に提出してもらいました。

出産予定日はクリスマスの日だったので、11月中旬まではちょこちょこ学校にでかけていましたが、12月9日に女の子が生まれてしまいました。出産には子ども達を立ち会わせたいと思っていたので、助産婦さんに来てもらって、今回は自宅で生みました。ちょうど関東に初雪が降った日で、子どもたちが庭で雪遊びをしたりしながらの賑やかな出産でした。生まれる直前の陣痛の後に、チョコでベタベタになっている息子の手を拭くなんてこと、病院じゃ絶対経験できないことです。赤ん坊のへその緒も、娘と夫がはさみでジョキっと切りました。

学校司書の仕事を続ける喜び

一人目の育児休業の時には、初めての子育てに無我夢中で1年が過ぎました。その間、世の中から取り残されるという不安もあり、早くバリバリと仕事がしたいとあせっていました。二人目の育児休業の時は、ちょうど家を建てていて、そのことで頭がいっぱい。息子も病院ではなく助産院で生んだので、育児に対して、私の中の価値観がずいぶん変わった一年でしたが、引っ越しやらなにやらで、あっという間に過ぎました。でも、今回は生活も落ち着き、育児経験もあり、三人目は本当に、ただただかわいい。「このまま大きくしないで取っておきたい」と思いながら育児を楽しみ、子ども達がいるからこそできる経験もいっぱいいっぱいしています。今までと生活が変わったのは、同じ年頃の子どもを持つ近所のお母さん達と交流があることです。

今、家で過ごしながら、学校司書というクリエイティブな仕事を持っているありがたさをしみじみ感じています。ランガナタンの図書館の五原則の中に、「図書館は成長する有機体である」という言葉があります。利用者の要求をしっかり受け止め、司書としての専門的な知識を最大限に生かすのに、この育児休業中は自分の子どもと向き合って忍耐力を磨き、人を育てる、育ち会うというのはどういうことかじっくり考える充電期間にします。そして、11月からパワーアップして仕事に復帰します。復帰してからの課題は、「教師の利用を増やす」ことと、総合学習をはじめとする「授業との連携」です。では、また！

（きのした　みちこ：埼玉県立春日部東高校司書）

工事に追われたこの一年間

―六年目のレポート―

宮崎健太郎

ここ数年、大きな工事に追われ続けつつ、司書になって6年目を迎えました。

一昨年の夏には照明の更新の工事が入り、それに併せてレイアウトの変更を行いました。そのときの様子は昨年の春にこちらに報告しましたが、今思えば、それは序章に過ぎなかったようです。

昨年夏に待っていたのは校舎の耐震工事。狭い館内は全面改装となり、工事期間中、閲覧室・司書室の資料と書架以外の備品すべてを別の校舎に運び出すことになってしまいました。1年がかりの大仕事です。1学期の早々から移動計画の作成、ダンボールや資材の見積もり・調達に追われ、7月には箱詰め・移動、夏休みを挟んで秋には再度資料の移動と復旧作業が……。改装されて明るく生まれ変わった閲覧室内にとりあえず資料は戻したものの、その間たまった通常業務がようやく落ち着いたかなと思えたのは初雪のころでした。

今度はシステム導入・蔵書の遡及作業

ようやく一息つけるかと思った年明けの1月、今度は、数年来要望し続けてきたコンピュータのシステムに予算がつきました。

導入したシステムはLibmax。秩父地区では共通して導入し始めていて、県内でも導入事例が多いシステムです。

データ遡及はTRCDからダウンロードすることで1年以内の完了を目指すことになりました。この春の総合学科移行に併せてシステム導入の予算がついたため、実際に選択授業が始まる来春までにはある程度の形にする必要があるのです。とはいえ、小鹿野高校図書館の蔵書数17,500冊。利用の少ない3月に集中的に作業を進めた結果、現段階で約8,000冊まで遡及が完了しています。

遡及は資料を見直すチャンス？

さて、実際の遡及は、目録ではなく現物にあたって作業を行っています。データを検索する際、書名よりも目録に書かれていないISBNで検索した方が速く確実にヒットするのです。

作業を始めて痛感しているのは、書架整理などを通して毎日接しているはずの資料が、実はぜんぜん見えていなかったことです。

データを1冊1冊ダウンロードし続けていると、「あ、こんな本、あったんだ」と思う毎日。さらに、TRCDからダウンロードされる分類と小鹿野高校で振ってきた請求記号とが違っている――そんな瞬間は、つい悩んでしまいます。現状の分類に疑問がなければ素通りですが、これまでの分類や配架が腑に落ちていないと手が止まり、しばしNDC片手に棚とにらめっこ。結局これまでともTRCDとも違う分類に振り直したことも…。

結局、分類・排架については、エクセルのファイルに小鹿野高ローカル・ルールをまとめ直しながら作業を進めることにしました。棚サイン用の言葉も併せて記録しているので、遡及を終えたら棚サインも一気に印刷・整備できるぞ、と、ちょっとにんまりしながら作業を進めています。

もっと大切な仕事って

ここ数年追われ続けている大きな仕事はどれも必要な仕事。地震が来ても安全な施設作りは大前提。使いやすく探しやすい目録の整備、より探しやすい分類の追及と棚づくり…、利用者が自分で必要な資料にたどり着ける仕掛けづくりのためには必要なことですよね。

でも、一方で、そのためにしそこなっているものが多いのも現実です。忙しくなると、読書に充てる時間は減り、きちんと紹介できる新刊本の数はどんどん減っていきます。生徒たちと向き合う時間もいっそう限られてしまいます。

学校図書館はわずか数百人の限られた利用者に資料を結び付ける場。まして生徒数400人弱の小さな学校ならば、最終的にモノをいうのは利用者と司書・司書と資料との距離の近さ。なのに、工事などが続き、生徒や資料に深く目を向けられずにいるのは大きな問題ですよね。

今年は、そのバランスをもっと利用者・資料寄りにもっていく一年にしたいです。

（みやざきけんたろう；埼玉県立小鹿野高等学校）

筑摩書房の目録をお届けします

図書目録 2003
ちくま文庫　ちくま学芸文庫目録2003
ちくま新書目録 2003

＊完結のお知らせ＊

本格的なのに読みやすさを徹底的に追求した初の全集

明治の文学（全25巻）

セット定価（本体価格 62,400 円＋税）
ISBN4-480-10140-3

筑摩書房営業部
〒111-8755　東京都台東区蔵前 2-5-3
TEL 03-5687-2680　FAX 03-5687-2685

子どもたちへ贈る、アジアの視点・世界の見方

父が子に語る世界歴史

新版　全 8 巻・完結

ジャワハールラール・ネルー

初代インド首相ネルーは、獄中から娘に宛てて、200 通の手紙を送った。成長しつつある子どものために書かれた手紙は、そのままアジアから見た世界の歴史の鳥瞰図そのもの。時代を超えて今、歴史の古典が蘇る。高校図書館必備の書。

大山 聰訳　四六判・平均232頁・各¥2200（本体）

http://www.msz.co.jp　みすず書房　東京・文京・本郷

福祉の仕事をしたい

平野隆彰著　自分を活かせる福祉の仕事につきたい人に――現場の声から進路の迷いや疑問に応える。四六／一八〇〇円

虫取り網をたずさえて

――昆虫学者・東子カウフマン自伝

青木聡子訳／養老孟司解説　夢を追って世界中を駆け抜けた生涯をみずみずしい感性から描く。四六／二〇〇〇円

ミネルヴァ書房　京都市山科区日ノ岡堤谷町 1　TEL075-581-0296　※価格税別

子どもの中世史

斉藤研一著　四六判／二八〇〇円
無事な誕生と健やかな成長を願われる一方、売買され労働力として期待された中世の子ども。力強く生きる子どもの実態を検証する。

子どもたちの近代

学校教育と家庭教育……小山静子著　一七〇〇円
教育の場とされる「学校」や「家庭」は、いずれも近代の産物だった。教育の成立を見直す、新しい教育史入門。（歴史文化ライブラリー）四六判

日本語の誕生

古代の文字と表記　沖森卓也著　四六判／一七〇〇円
仮名のない時代、どう日本語を書き表していたか。漢字伝来から平仮名・片仮名の成立まで、その変遷を再現。（歴史文化ライブラリー）

人物叢書　図書館必備！　四六判＊最新刊

毛利重就

小川國治著　一八〇〇円
江戸中期の萩藩主。藩政改革を断行した名君の初伝。

支倉常長

五野井隆史著　一九〇〇円
ローマ教皇と謁見した仙台藩士。その封印された実像。

価格税別　東京都文京区本郷七―二―八　電話〇三―三八一三―九一五一　吉川弘文館

ヤングアダルト図書総目録

（頒価本体 286 円　送料 390 円）　2003 年版発売！

■巻頭エッセイや『朝の読書』実践校紹介の頁も充実。
■「戦争と平和を考える本」書名索引付。

ヤングアダルト（ＹＡ）とは、主に中学、高校生（13～19歳）を対象とした呼称です。本日録ではこの多感な世代にお薦めの本を紹介しています。

※書店様へご注文ください。

ヤングアダルト図書総目録刊行会
〒162-8710 東京都新宿区東五軒町 6-24 トーハン内　電話 03-3266-9521

http://www.ikedashoten.co.jp/

STEP UP SPORTSシリーズ

ヤンキース松井が愛読！

野球のメンタルトレーニング

心を鍛えて強くなる！トップ選手たちのインタビュー、具体的な方法など、一冊にわかりやすく解説。
高畑好秀 著　A5判　本体1200+税　4-262-16284-2

メンタル強化バイブル

高畑好秀 著　A5判　本体1300+税　4-262-16283-4

スポーツ科学バイブル

高畑好秀 監　A5判　本体1200+税　4-262-16285-0

スポーツ栄養バイブル

平石貴久 著　A5判　本体1300+税　4-262-16286-9

池田書店　〒162-0851　東京都新宿区弁天町43　TEL. 03-3267-6821　FAX. 03-3235-6672

生命と地球の進化アトラス（全3巻）

Ⅰ 地球の起源からシルル紀まで（6月刊）
Ⅱ デボン紀から白亜紀まで（10月刊）
Ⅲ 第三紀から現代まで（04年1月刊）

A4変型・152頁　各本体8500円（税別）

生命の進化と地球の歴史の壮大なドラマをオールカラーで刊行！

日本人の事典

佐藤方彦編

6月刊　本体28500円（税別）

総合図書目録'03Ⅱあります。ご請求下さい。

朝倉書店　東京都新宿区新小川町6-29　〒162-8707 ☎03－3260－7631

限りなく広がる知識の世界 辞典600点突破！

日本語 漢字力がつく辞典

村石利夫著　常用漢字から国字、当て字、旧字、俗字、異体字まで正しい字体の使い分けができるようにした漢字の蘊蓄辞典。　四六判 320頁　本体2200円

からだことば辞典

東郷吉男編　顔が広い・腹黒いなど身体部位の持つ特徴から作られた多彩な発想による言葉を6000語網羅し解説した初の辞典。四六判 384頁　本体2900円

ニュースの英語に強くなる本

読売新聞国際部編　あらゆる分野からのニュース英語が確実に身につく。　四六変型判 318頁　本体1900円

東京堂出版　〒101-0051　東京都千代田区神田神保町1-17-5F　TEL 03-3233-3741　図書目録進呈

村上春樹の新しい訳でお届けする
新世代の『ライ麦畑でつかまえて』

キャッチャー・イン・ザ・ライ

J.D.サリンジャー［著］　村上春樹［訳］

さあ，ホールデンの声に
耳を澄ませてください．

サリンジャーの不朽の青春小説が，村上春樹の鮮烈な訳を得て40年ぶりに生まれ変わりました．すでに読んだ人も，初めて読む人も，清新な『キャッチャー』をお楽しみください．

▼四六判　本体1600円

白水社　101-0052 東京神田小川町3-24/TEL03-3291-7811
http://www.hakusuisha.co.jp　（価格は税別）

友だちができる本

ロージー・ラシュトン 寺西のぶ子訳 フジモトマサル絵

友だちづくりの4つのポイント。なかなおりする5つの楽しい方法。上手な「ノー」の言い方。……子どもから大人まで、共通する問題が盛りだくさん。親と子がいっしょに考えたり、仕事に活かしたり、広く役立つヒント満載。

◆A5判／192頁／1470円

晶文社　〒101－0021　東京都千代田区外神田2－1－12
電話 03(3255) 4501　※価格は税込
http://www. shobunsha. co.jp/

獄本野ばらが選ぶ乙女小説の傑作選

吉屋信子 乙女小説コレクション

全3巻

四六判・上製カバー・平均 250 頁・予価各 1900 円

『花物語』で今も人気を誇る吉屋信子の傑作少女小説を中原淳一の装幀で飾るコレクション。監修者獄本野ばらの丁寧な解説・註を付し現代の読者に読みやすい形でおくる。

第1巻　わすれなぐさ（2月刊）
第2巻　屋根裏の二処女（3月刊）
第3巻　伴先生（4月刊）

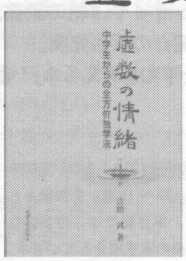
国書刊行会　〒174-0056 板橋区志村 1-13-15（税別価）
☎ 03-5970-7421 FAX 03-5970-7427

こんな本を待っていた！ ★日刊工業新聞第16回「技術・科学図書文化賞」受賞!!

—中学生からの全方位独学法—

虚数の情緒

大好評発売中



吉田 武（よしだ・たけし）著
工学博士（数理工学専攻）

この本は人類文化の全体的把握を目指した科目分類に拘らない「独習書」である。歴史、文化、科学など多くの分野が、虚数を軸に悠然たる筆致で書かれている。また人生の「参考書」ともなるよう、様々な分野の天才達を縦横に配した。漢字、電卓の積極活用なども他に例の無い独特のものである。

A5判・上製本・1032頁／定価（本体4300円＋税）
ISBN 4-486-01485-5　C3041 分野／自然科学（数学）

東海大学出版会
〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷 2-28-4
TEL:03-5478-0891　FAX:03-5478-0870
URL http://www.press.tokai.ac.jp/　E-mail:webmaster@press.tokai.ac.jp